

重点目標	・基本的な生活習慣を確立させ、健全な生活態度を育成する		P
現 状	・遅刻者はほとんどいない。整容面では少数の生徒に乱れが見られるが、全体としては良好である。各学年に数名、精神的に弱い面を持つ生徒がいる。		
具体的な目標	・ルールやマナーを遵守する生活指導をする。生徒の実態を把握し、事故の未然防止に努める。		
目標達成のための方策	・校門指導、整容指導、定例生徒指導部会の実施。教育相談係の創設。特定生徒の指導に関する教職員全体の共通理解。		
具体的な取組状況	・定期的に校門指導、整容指導を実施している。生徒指導部会も定期的に関き、生徒の現状把握に努めている。昨年来、精神的に弱い生徒の増加が見受けられ、今年度から、全職員に対する特定生徒への指導のあり方についての共通理解をはかる情報交換会を実施し、併せて、生徒指導部内に教育相談係を設けた。		D
達成状況	・問題を抱えた生徒に対して、学年だけで対処していたが、学校全体で対処する体制が出来つつある。		
自己評価	(評価) B	(根拠) ・各学年の集会に参加し、整容指導の充実と指導の均一化を図った。まだ、多少の差異は認められるが、改善の方向に向かっている。	C
↑ 評価基準 A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	A	・問題行動もなく、平穏な学校生活を生徒が送っているようである。今後とも継続して欲しい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	統合校へ向け、内規の整備と共通理解を図る指導体制の確立をしなければならない。来年度からは、統合校の生徒と在校生と制服が二通りになり、指導上難しい面もあるが、共有できる内規は共有し、ぶれのない指導を心掛けたい。		A